



## 「主の復活は我らの希望の光」

～すべて無駄にはならない人生～

「そこで愛する我が教会(かぞく)よ。このように勝利は確実なのだから、しっかり立ち、決して心を奪われないように。イエス様の計画のために全身全霊で働きなさい。これだけは忘れないように。それは、イエス様のためにやることは、どんな小さなことであってもむだにならないということだ！」〔アライブ記〕 「そこで愛する皆さん、このように将来の勝利は確実なのですから、しっかり立って、動揺することなく、いつも、主の働きに熱心に励みなさい。なぜなら、復活は確かであり、主のための働きが、決してむだ骨に終わらないことを、あなたがたは知っているからです。」〔リビングバイブル〕 コリント人への第一の手紙15章58節

日本同様に平和だと言われていたニュージーランドで痛ましい事件が起きました。今度はイスラム移民の人々に対しての保護主義ともいうべき逆のテロとでもいうべきか分かりませんが、どこまで世界は暴走していくのか？と理解に苦しむ混乱状態です。しかし、今後、この単一民族と言われる平和な日本も例外ではなく、グローバル化、そして、逆の保護主義的な世界の混乱の影響を受けることは否定できません。3. 11のような自然災害のみならず、9. 11のような人的災害もやはり同時に起こってくるでしょう。

しかし、そんな時代に人々は何を求めるのでしょうか？この世には決して安住の地はない。どんなときにも不安と隣合わせの時代に生かされています。そんな不安定過ぎる時代では、もちろん希望は持てませんから、未来を信じることができなければ、現在を生きることはできなくなります。国を信じることができなしい、世界を信じることができなしい。人を信じることができなしい、自分を信じるができなしい。だからこそ、身近にいる人との絆が大切になってきます。教会は愛の共同体です。そこで語られるのが、希望のメッセージです。この希望は決して失望に終わるものではありません。将来と希望に満ちています。

私たちは「主のわざ」をたゆまずに実践してきます。「主のわざ」とは何でしょうか？それは、希望のメッセージを人々に届けていくことです。そのためには、私たち自身がその希望に生きていないといけません。しっかりとイエス様に従っていかなければなりません。クリスチャンが不安になっていたらあかしになりません。しっかりと聖書の御言葉に堅く立って、岩の上に建てた家のように、どんな嵐がやってきても決してびくともしない歩みをしていなければなりません。

「復活の信仰」はすべての希望の源です。イエス様が復活されたと信じるなら私たちには希望が与えられます。しかし、信じないなら失望に満ちたむなしい人生が待っています。イエス様の復活こそが、全人類に希望の光を届ける命の光なのです。昨日私たちのために死んで下さり、今朝よみがえって下さった主は、明日私たちを迎えに来られると信じるのです。